

貝層の保護・表現について

1 整備計画案の検討

(1) 貝層範囲表示

ア 現 況

北貝塚は範囲表示が無く、貝層の範囲が明瞭でない。

南貝塚は大谷石を用いて範囲を表示しているが、草に埋没し遠望できない。

イ 検討状況

- 1) 白色系の花が咲く野草の植栽の検討については、縄文時代の植生の再現としては課題が多い。せっかく特別史跡である貝塚があるのに、花で人を呼ぼうというのは縄文時代の景観復元としては適切でない等の意見があった。
- 2) 白色系の硬質土質舗装については、積極的な賛同の意見等は無かった。
- 3) 代案として、現在の草地を残しサイン表示や AR(拡張現実)などによる映像技術の活用による貝層範囲の明確化を行うことを検討する。
- 4) 他都市の貝塚範囲表示事例を参考に検討する。

2 これまでの検討結果

(1) 保護盛土

ア 現 状

北貝塚は一部で貝層が露出し、令和元年度に台風による倒木が発生し、貝層がき損した。

北貝塚の中央部窪地は、遺構確認面から現況地表面まで約 50～60 cmあり、遺構は保護されている。

南貝塚は貝層が露出している箇所はない。

イ 検討結果

北貝塚の中央部窪地裾付近では、現況地表面から縄文時代の生活想定面まで約 70 cmの堆積が確認できる。貝層上面は削平を受けていることから、70 cm以上の盛土を行い、貝層を保護するとともに、盛り上がりのある地形を復元的に整備する。

盛土の層厚は、これまでの発掘調査の成果を検討して決定し、設計へ反映する。

(2) 盛土の仕上げ

ア 現 状

北貝塚は昭和 41 年度に実施した都市公園整備で、貝層上から斜面は植樹、中央部窪地は芝張を実施している。

令和3年から北貝塚上の樹木の伐採を進めており、令和8年度までに皆伐完了の予定。

北貝塚中央部窪地の張芝はほぼ残っていない。

北貝塚斜面では、土砂流出防止のため、一部ネットを設置している。

南貝塚は昭和 63 年度から平成5年度に実施した環境整備工事で、大谷石による貝層表示、園路整備等を行っているが、現況草地の保全を優先し、盛土は行っていない。

イ 検討結果

盛土の流出を防止するため、表面を保護する必要がある。

表面の仕上げは芝張を候補とし、検討を進め、設計へ反映させる。

盛土を実施しない北貝塚中央部窪地、南貝塚は現況草地の保全を優先する。

(3) 貝層範囲表示

ア 現 況

北貝塚は範囲表示が無く、貝層の範囲が明瞭でない。

南貝塚は大谷石を用いて範囲を表示しているが、草に埋没し遠望できない。

イ 検討結果

1) 白色系の硬質土質舗装、2) 白色系の花が咲く野草の植栽を候補に検討し、設計へ反映させる。

3 経 緯

平成30(2018)年度 『特別史跡加曽利貝塚ランドデザイン』(平成31年2月策定)の中で、貝層の保護・表現に関する基本方針を示す。

(貝層の保護)

・加曽利貝塚に自生する樹木は、縄文時代の景観を演出する要素の一つとなっていますが、大木化した樹木は、貝層に悪影響を及ぼす要因となっている可能性があります。これらの樹木は貝層保護のため、伐採などで整理する必要がありますが、自然環境に配慮し、時間をかけて次第に減らしていきます。

・加曽利貝塚では、貝や土器などの遺物が地表面に露出している箇所がありますが、これは盛土が薄いことが要因であると考えられるため、適切な厚さの盛土を行います。

(貝層の表現)

・加曽利貝塚の特色である貝塚の大きさと広がりを目に見えるようにするため、盛土を行った上に貝が堆積している状況を表示することを検討します。

・ただし、貝層の分布と形成過程の全体像が明らかになっていないため、今後の調査研究成果を参考に段階的に整備するとともに、VR(仮想現実)・AR(拡張現実)などの映像技術の活用を視野に入れて検討します。

令和元(2019)年度	短期的(第1期)史跡整備着手、史跡整備基本設計を実施 貝層上の樹木伐採、保護盛土、盛土の法面保護、貝層範囲表示について検討 1) 貝層上の樹木伐採 検討結果 ・貝塚遺構への影響を軽減すること、また新博物館から北貝塚への景観を確保するために、既設円形アスファルト舗装園路より内側は全ての樹木を伐採する。 2) 保護盛土 検討結果 ・貝塚裾付近の遺構深さを参考に、約 70 cmの盛土により貝層を保護するとともに、中央部窪地との高さ関係を表現する。 3) 盛土の法面保護 ・盛土地表面の仕上げについて検討し、芝張を候補とした。 ・舗装は原状の景観が大きく変化するため、砂利敷は施設の状況を維持することが困難なため、ササは背丈が伸びすぎるため、草花植栽はこの地にはない種を導入すべきではないことから不適とした。 4) 貝層範囲表示 ・遠望においても貝層範囲が分かり易く、草刈等の維持管理が容易な表示とする。 ・北貝塚は、貝層範囲から内側に幅 1.0mで、白色砂利硬化舗装等により表示する。 ・南貝塚は、既設の大谷石を活かしつつ、白色砂利硬化舗装等を追加して表示する。
令和3(2021)年度	貝層上の樹木伐採に着手(令和 8 年度まで計画的に伐採予定) ※令和7年4月23日現在で合計 695 本のうち残数 116 本
令和5(2023)年度	第2期史跡整備基本計画の検討着手 令和元年度の検討結果を踏まえ、貝層表現の方針・方法を検討 ・貝塚の広がりを実感できるよう、貝層エリアと中央広場エリアで表現方法を変える。 ・中央広場エリアは平坦な仕上がりとする。 ・貝層エリアは盛り上がりのある地形を復元的に整備する。 ・復元にあたり、これまでの発掘調査の成果を十分に検討する。 ・自然環境に配慮し、植栽による表現を改めて検討する。